

早稲田大学日本語教育学会

2021年 春季大会

3月20日(土) 12:00-18:10 オンライン開催 (Zoom)

12:00-12:10 【開会式】

12:10-13:40 【企画1】

①「日本語教師の「専門性の三位一体モデル」を使ったワークショップ」

【ファシリテーター】松本明香 (早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程)
【ファシリテーター】伊藤茉莉奈 (早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程)
【ファシリテーター】木村かおり (マラヤ大学人文社会学部上級講師)
【ファシリテーター】古賀万紀子 (大正大学コアチューター)
【ファシリテーター】小畑美奈恵 (早稲田大学日本語教育研究センター助手)
【ファシリテーター】古屋憲章 (山梨学院大学特任講師)

※【企画1】は事前申込制です。参加申込方法は予稿集をご覧ください。また、学会参加申込後、メールでもお知らせします。

13:50-16:20 【ポスター発表②③④⑦】 【口頭発表⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫⑬】

13:50-14:20

②「少年院に在院している外国人非行少年の日本語能力の現状—日本語教育を受けていない外国人非行少年を対象に—」

山下千聖

(早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程)

③「美術作品の鑑賞を取り入れた日本語授業の効果と課題」

桐澤絵里奈

(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程)

④「日本語会話授業の活動に対する学習者評価の分析—フランスの大学での2年間の実践と調査から—」

芹川佳子

(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程)

14:30-15:00

⑤「現代日本語母語教師の役割観とは—中国非常勤日本語母語教師「外教」を例に—」

浦井智司

(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程、
国際交流基金北京日本文化センター
海外日本語教育調整員)

⑥「JSL 高校生が書くことを通して自身を発見するプロセス—言語教育の観点から—」

小林美希

(早稲田大学日本語教育研究センター
非常勤インストラクター)

⑦「接触場面における日本語母語話者と学習者の人間関係に対する認識—スピーチレベルを通して—」

莫冠シン

(早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程)

15:10-15:40

⑧「第二言語としての日本語ナラティブ作文に対する日本語母語話者教師の評価観点—good writingの評価はどう異なるか—」

坪根由香里

(大阪観光大学観光学部教授)

トンプソン美恵子 (山梨学院大学 GLC 特任准教授)

影山陽子 (昭和音楽大学非常勤講師)

数野恵理 (立教大学日本語教育センター特任准教授)

⑨「学習意欲を高めるオンライン授業とその課題—ポストコロナ時代における日本語教育のための一考察—」

ウォーカー泉

(シンガポール国立大学
語学教育研究センター准教授)

⑩「初級韓国学習者の動詞活用における特殊拍の生成—テ形活用における誤用のパターンから—」

沈希津

(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程)

15:50-16:20

⑪「留学生が自身の興味・関心をトピックとして提供した日本語対話活動の実践研究—活動がもたらした学びとは—」

岡田亜矢子

(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程)

⑫「日本語学習と学習者の「これから」をつなぐ日本語教育に必要な視点とは—孤立環境で行った「わたしと日本語」について書く授業実践を通して—」

上原龍彦

(早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程修了生)

⑬「ポストコロナ時代のオンライン日本語教育—中国のブレンディッド・コースを例に—」

戸田貴子 (早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)

胡偉 (東北财经大学)

国際ビジネス外国語学院副教授、
早稲田大学日本語教育研究科博士後期課程)

16:30-18:00 【企画2】

⑭「子どもと日本語教育—専門家の養成・研修のあり方を実践から考える—」

【司会、発表者】川上郁雄 (早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)
【発表者】池上摩希子 (早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)
【発表者】宮崎里司 (早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)
【発表者】福島青史 (早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)
【発表者】本間祥子 (日本大学国際関係学部助教)

18:00-18:10 【総会】

【会場】Zoom (URLは3月17日(水)に参加申請者にメールにて送付) 【参加費】無料 (会員による事前申し込み制→)

※本学会は紙媒体の予稿集は配付しません。予稿集は3月13日(土)以降、
学会ホームページからダウンロード可能になります。ダウンロード、または印刷の上、ご参加ください。

